

平成30年度第1回小田原市生活交通ネットワーク協議会 次第

日 時 平成30年8月23日(木) 午前10時
場 所 小田原市役所3階 議会全員協議会室

1 開 会

2 議 題

協議事項

- (1) 平成29年度小田原市生活交通ネットワーク協議会事業報告について
- (2) 平成29年度小田原市生活交通ネットワーク協議会決算報告について
- (3) 平成30年度小田原市生活交通ネットワーク協議会事業(案)について
- (4) 平成30年度小田原市生活交通ネットワーク協議会予算(案)について
- (5) 平成29年度小田原市地域公共交通総合連携計画の事業実施状況の評価(案)について

報告事項

- (1) 橘地域における実証運行の状況について
- (2) まち・住まい・交通の創蓄省エネルギー化モデル構築支援事業について
(第5回バス de おでかけプロジェクト)

その他

3 閉 会

年月日	内 容
平成29年 5月16日	<p>平成29年度第1回小田原市生活交通ネットワーク協議会協議事項</p> <p>(1) 平成28年度小田原市生活交通ネットワーク協議会事業報告について (2) 平成28年度小田原市生活交通ネットワーク協議会決算報告について (3) 平成29年度小田原市生活交通ネットワーク協議会事業(案)について (4) 平成29年度小田原市生活交通ネットワーク協議会予算(案)について (5) 平成28年度小田原市地域公共交通総合連携計画の事業実施状況の評価(案)について (6) 橋地域における実証運行の状況について</p> <p>報告事項</p> <p>(1) まち・住まい・交通の創蓄省エネルギー化モデル構築支援事業について (2) 小田原駅周辺・訪日外国人旅行者等が移動を円滑に行うための交通サービスに関する調査について</p>
平成29年 7月～9月	<p>まち・住まい・交通の創蓄省エネルギー化モデル構築支援事業</p> <p>・「第4回バス de おでかけプロジェクト」の実施 (実施主体) バス事業者：箱根登山バス株式会社、富士急湘南バス株式会社 商業者：ダイナシティ、西武小田原店、イトーヨーカドー小田原店 行政：小田原市</p>
平成29年 7～11月	<p>バス利用啓発活動 橋地域におけるイベントに参加(計5回)</p>
平成29年 9月16日	<p>第2回バス路線再編(橋地域における実証運行)</p>
平成29年 10月5日	<p>「バスの乗り方教室」開催</p> <p>・早川小学校を対象に実施 (実施主体) 箱根登山バス株式会社</p>
平成29年 10月11日	<p>「バスの乗り方教室」開催</p> <p>・山王小学校を対象に実施 (実施主体) 箱根登山バス株式会社</p>
平成29年 10月20日	<p>「バスの乗り方教室」開催</p> <p>・新玉小学校を対象に実施 (実施主体) 箱根登山バス株式会社</p>
平成29年 11月30日	<p>「バスの乗り方教室」開催</p> <p>・久野小学校を対象に実施 (実施主体) 伊豆箱根バス株式会社</p>
平成30年 1月15日	<p>地域公共交通確保維持改善事業・事業評価に係る書面協議 (平成30年1月31日承認)</p>
平成30年 3月22日	<p>平成29年度第2回小田原市生活交通ネットワーク協議会報告事項</p> <p>(1) 立地適正化計画について (2) 橋地域における実証運行の状況について (3) 国府津駅周辺整備事業について (4) まち・住まい・交通の創蓄省エネルギー化モデル構築支援事業について</p>
平成30年 2月13日～ 3月23日	<p>バスマップの印刷製本・関係市町村への配布 (実施主体) 酒匂川流域地域公共交通活性化検討会(小田原市及び足柄上地域1市5町)</p>

平成 29 年度小田原市生活交通ネットワーク協議会決算報告

1 歳入 (単位:円)

科 目	決算額	摘 要
負担金	250,000	小田原市
繰越金	383,627	前年度
雑入	3	預金利子
合計	633,630	

2 歳出 (単位:円)

科 目	決算額	摘 要
会議費	129,952	報酬、旅費、需用費 (食糧費・消耗品費)
事務費	46,821	旅費、需用費 (消耗品費)
合計	176,773	

※歳入と歳出の差額 456,857 円は次年度に繰り越しとする。

監 査 報 告 書

小田原市生活交通ネットワーク協議会規約第10条第1項の規定により、平成29年度収入支出決算について監査した結果、適正なものと認めます。

平成30年 7 月 30 日

小田原市生活交通ネットワーク協議会

監事 小田原箱根商工会議所中小企業相談部経営支援課長 長田 圭司 

監事 神奈川県県土整備局都市部交通企画課長 星名 隆 

年月日	内 容
平成30年 8月23日	<p>平成30年度第1回小田原市生活交通ネットワーク協議会 協議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 平成29年度小田原市生活交通ネットワーク協議会事業報告について (2) 平成29年度小田原市生活交通ネットワーク協議会決算報告について (3) 平成30年度小田原市生活交通ネットワーク協議会事業（案）について (4) 平成30年度小田原市生活交通ネットワーク協議会予算（案）について (5) 平成29年度小田原市地域公共交通総合連携計画の事業実施状況の 評価（案）について <p>報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 橘地域における実証運行の状況について (2) まち・住まい・交通の創蓄省エネルギー化モデル構築支援事業について （第5回バス de おでかけプロジェクト）
平成30年 7月～10月	<p>まち・住まい・交通の創蓄省エネルギー化モデル構築支援事業 ・「第5回バス de おでかけプロジェクト」の実施 （実施主体） バス事業者：箱根登山バス株式会社、富士急湘南バス株式会社 商 業 者：株式会社ダイドーフォワード、イトーヨーカドー小田原店 行 政：小田原市</p>
平成30年 5月～11月	<p>バス利用啓発活動 橘地域におけるイベントに参加 （計6回を予定、うち3回実施済み）</p>
平成30年 9月	<p>橘地域における移動手段に関する住民アンケート調査</p>
平成30年 10～11月頃	<p>「バスの乗り方教室」開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山王小学校 （実施主体）箱根登山バス株式会社 ・久野小学校 （実施主体）伊豆箱根バス株式会社 ・下中小学校 （実施主体）神奈川中央交通株式会社 で実施予定
平成30年 11～12月頃	<p>平成30年度第2回小田原市生活交通ネットワーク協議会 協議事項 平成31年度の橘地域における地域公共交通について</p> <p>報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 橘地域における実証運行の状況について (2) まち・住まい・交通の創蓄省エネルギー化モデル構築支援事業について （第5回バス de おでかけプロジェクト）
平成30年 12月～ 平成31年 3月頃	<p>バスマップの印刷製本・関係市町への配布 （実施主体） 酒匂川流域地域公共交通活性化検討会（小田原市及び足柄上地域1市5町）</p>

平成30年度小田原市生活交通ネットワーク協議会予算（案）

1 歳入

（単位：円）

科 目	予算額	摘 要
負担金	250,000	小田原市
繰越金	456,857	前年度からの繰越
合計	706,857	

2 歳出

（単位：円）

科 目	予算額	摘 要
会議費	150,000	報酬、旅費、需用費（食糧費・消耗品費）
事務費	100,000	旅費、需用費（消耗品費）
役務費	250,000	アンケート調査に係る郵便料
予備費	206,857	
合計	706,857	

※但し、科目間の流用を認める。

平成29年度 小田原市地域公共交通総合連携計画の事業実施状況の評価(案)

事業番号	事業名	実施主体	短期 (平成27年度)	中長期 (平成34年度)	事業実施状況 (平成29年度)	H29年度 事業実 施評価	
1	主軸路線の位置づけ・主要施設へのアクセス向上 【継続的な取組】	交通事業者・行政	協議・実証運行等	実施	・下曽我駅～国府津駅間の路線バスの運行本数について、一定のサービス水準を維持するよう調整(H30.3)	A	
優先 2	乗継環境の 円滑化	①ダイヤの改善 【継続的な取組】	交通事業者・行政	協議後、一部実施	実施	・根府川地域の路線バスについて、JR東海道本線の根府川駅到着時刻に合わせ終発時刻を調整(H29.11 1便 18:21→18:35)	A
		②機能・重要度に応じた乗継拠点の整備	交通事業者・行政	協議後、順次整備	順次整備	・国府津駅周辺や国道1号の混雑の緩和に向け、国府津駅周辺整備の基本計画を策定(路線バス等の遅延防止・利便性向上) ・中村川沿いに設置されている押切バス停への安全対策として、注意看板の設置及び減速ドットの表示を実施(H28.2 神奈川県西土木事務所対応)【一部実施】	B
重点 3	ニーズに応じ た路線バス の改善	①利用目的・時間帯等に配慮した運行 【継続的な取組】	交通事業者・行政	協議・実証運行等	実施	・小田原駅東口発、久野方面行き路線バスについて、沿線企業の始業時間を考慮し発車時刻を調整(H29.11 1便 7:40→7:35) ・橘地域の実証運行事業において、利用者の多い朝夕の時間帯の運行本数を維持し利用者の少ない昼間時間帯を減便するなど、地域ニーズを踏まえつつ採算性を考慮した再編を実施(H29.9)	A
		②おでかけ品質確保・向上のためのルールづくり 【継続的な取組】	市民・交通事業者・行政	協議後、一部実施	継続的実施	・おでかけ品質確保・向上のためのルールを市ホームページ上で公開(H28.4)【継続的実施】	A
最優先 4	分かりやすい 情報提供	①バス停・行き先案内等の統一化	交通事業者・行政	協議後、一部実施	実施		C
		②主要バス停における共通時刻表・路線図・運賃表の掲出	交通事業者・行政	協議後、一部実施	実施	・「銀座通り」バス停新設(3社統一バスポールの設置、商店会の協力)(H26.11)【一部実施】 ・ハルネ小田原におけるバス時刻表の統一化の実施(H26.11)【一部実施】	B
		③小田原駅における案内サインの改善・案内所の一元化	交通事業者・行政	協議後、順次整備	順次整備	・平成28年度に実施した「小田原駅周辺・訪日外国人旅行者等が移動を円滑に行うための交通サービスに関する調査」に基づく誘導サイン等の改修に向け関係機関と調整中	B
		④駅前広場のレイアウト等の見直し	交通事業者・行政	協議後、順次整備	順次整備	・国府津駅周辺や国道1号の混雑の緩和に向け、国府津駅周辺整備の基本計画を策定(路線バス等の遅延防止・利便性向上)【再掲】 ・小田原駅西口広場において、バス・タクシー降車場の路面表示の改善舗装を実施(H28.3)【一部実施】	B
		⑤バスマップの作成・配布【継続的な取組】	交通事業者・行政	継続的実施	継続的実施	・バスマップの配布(H29年度改訂、3月配布)【継続的実施】	A
		⑥インターネットの活用等による情報提供の充実【継続的な取組】	交通事業者・行政	協議後、実施	継続的実施	・橘地域のバス路線再編(H29.9)に伴うダイヤ改正について、市ホームページへ掲載【継続的実施】	A
5	バリアフリー 化の促進	①ノンステップバス・UDタクシーの導入推進 【継続的な取組】	交通事業者・行政	継続的実施	継続的実施	・平成26年度ノンステップバスの導入5台、平成27年度ノンステップバスの導入2台、平成28年度UDタクシーの導入2台【継続的実施】	A
		②バス停・バス停までのルートのバリアフリー化 【継続的な取組】	交通事業者・行政	協議後、順次整備	順次整備		C
6	路線バスの 走行環境の 向上	①駅前広場における路線バスの優先性の確保等 【継続的な取組】	交通事業者・行政	協議後、順次整備	順次整備	・小田原駅西口広場において、バス・タクシー降車場の路面表示の改善舗装を実施(H28.3)【一部実施】	B
		②路線バス走行環境を支援する施策の展開 【継続的な取組】	交通事業者・行政	協議、実証実験等	実施		C
7	利用促進・交 通需要マネ ジメント	①児童・保護者を対象としたバスの乗り方教室、児童作品の車内展示等【継続的な取組】	市民・交通事業者・行政	協議後、一部実施	実施	・バスの乗り方教室の実施(箱根登山バス:早川小・山王小・新玉小(H29.10)、伊豆箱根バス:久野小(H29.11))【継続的実施】	A
		②商業施設・公共施設と連携した特典サービスの実施等【継続的な取組】	企業・交通事業者・行政	協議後、一部実施	実施	・大型商業施設であるダイナシティ内の店舗と当該商業施設に乗入れているバス事業者がタイアップし、「バスdeおでかけプロジェクト」を実施【継続的実施】(H29.7.1～9.30)	A
		③企業と連携したエコ通勤の推進等【継続的な取組】	企業・交通事業者・行政	協議後、一部実施	実施	・西湘テクノパーク企業連絡協議会に対して利用啓発と路線バス時刻表の配布を実施(H29.9)【継続的実施】 ・橘商工会広報誌による実証運行の利用状況の報告と利用啓発の実施(H30.3)【継続的実施】	A

凡例 A:実施 B:一部実施・協議・検討中 C:未実施

【平成29年度に実施した主な事業】

(事業番号 優先2-①) 根府川地域の路線バスについて、乗継環境の改善のためJR東海道本線の根府川駅到着時刻に合わせ終発時刻を調整

(事業番号 優先2-②・最優先4-④) 国府津駅周辺や国道1号の混雑の緩和に向け、国府津駅周辺整備の基本計画を策定

(事業番号 重点3-①) 小田原駅東口発、久野方面行き路線バスについて、沿線企業のニーズに応じて始業時間を考慮し発車時刻を調整

(事業番号 重点3-①) 橘地域の実証運行事業において、地域ニーズを踏まえつつ採算性を考慮した路線再編を平成29年9月16日に実施

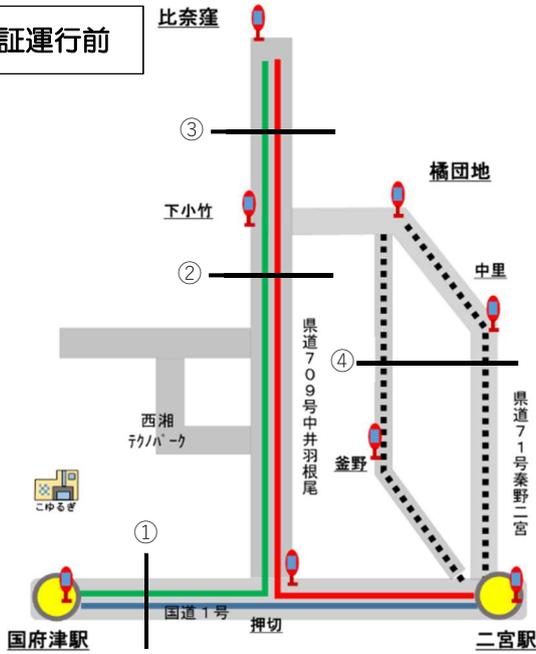
(事業番号 7-①) バスの乗り方教室について、新たに新玉小学校(箱根登山バス株式会社)、久野小学校(伊豆箱根バス株式会社)を加え、4校を対象に実施

(事業番号 7-②) 大型商業施設であるダイナシティ内の店舗と当該商業施設に乗入れているバス事業者(箱根登山バス株式会社、富士急湘南バス株式会社)がタイアップし、「バスdeおでかけプロジェクト」を実施

橘地域における実証運行の状況について

1 実証運行の概要

実証運行前

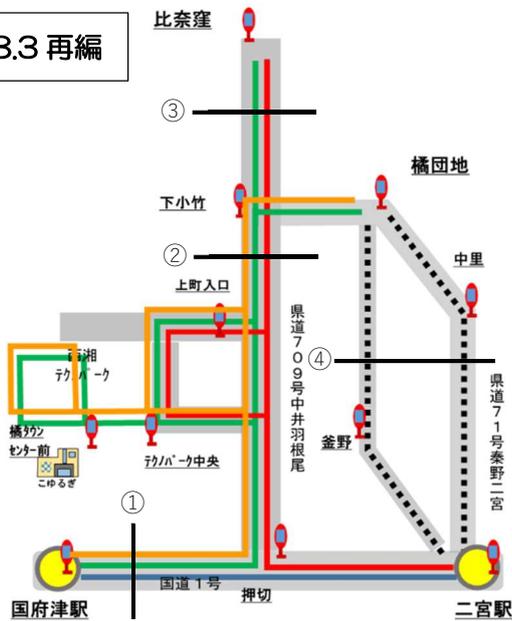


路線	運行本数 (平日片道)
平塚駅北口～国府津駅	3 3
国府津駅～比奈窪	1 4. 5
二宮駅南口～比奈窪	4 4
二宮駅北口～橋団地	2 9

区間別の運行本数

区間	運行本数 (平日片道)
①国府津駅～押切バス停	4 7. 5
②押切バス停～下小竹バス停	1 4. 5
③下小竹バス停～比奈窪バス停	1 4. 5
④橋団地バス停～二宮駅北口	2 9

H28.3 再編

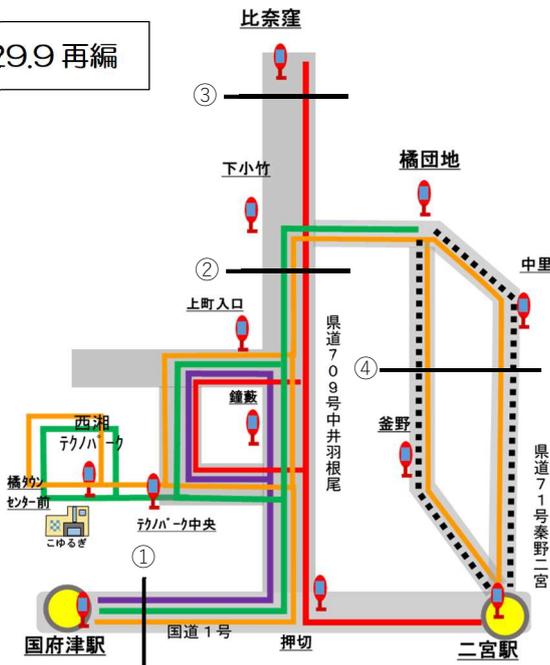


路線	運行本数 (平日片道)
平塚駅北口～国府津駅	3
国府津駅～比奈窪	9
二宮駅南口～比奈窪	4 4
国府津駅～橋団地	1 8. 5
二宮駅北口～橋団地	2 9

区間別の運行本数

区間	運行本数 (平日片道)
①国府津駅～押切バス停	3 0. 5
②押切バス停～橋団地バス停	2 7. 5
③橋団地バス停～比奈窪バス停	9
④橋団地バス停～二宮駅北口	2 9

H29.9 再編



路線	運行本数 (平日片道)
二宮駅南口～比奈窪	4 4
国府津駅～二宮駅北口	1 9. 5
国府津駅～橋団地	3. 5
国府津駅～国府津駅	3
二宮駅北口～橋団地	4. 5

区間別の運行本数

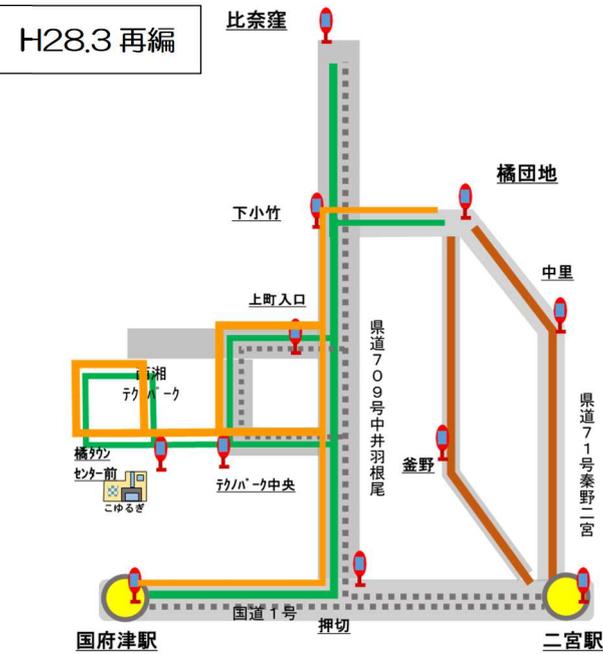
区間	運行本数 (平日片道)
①国府津駅～押切バス停	2 6
②押切バス停～橋団地バス停	2 3
③橋団地バス停～比奈窪バス停	0
④橋団地バス停～二宮駅北口	2 4

2 実証運行開始後の状況（バス1台による1日あたりの輸送人員の比較）



実証運行前（平成27年度）

緑色・茶色の路線	
1日あたりの利用者数の合計	684人/日
運行バスの台数	4台
1台あたりの輸送人員（1日当り）	171人/台

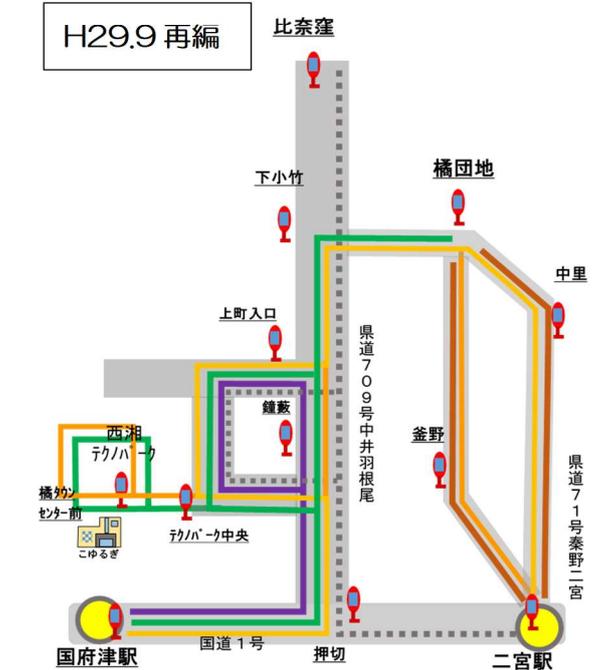


H28.3再編後（平成28年4月～平成29年9月15日）

緑色・黄色・茶色の路線	
1日あたりの利用者数の合計	910人/日
運行バスの台数	5台
1台あたりの輸送人員（1日当り）	182人/台

（再編前の1.06倍）

地域のニーズを反映し、こゆるぎや、テクノパーク、橋団地を經由することで利用者数が増加したが、バスの運行台数も増加した。



H29.9再編後（平成29年9月16日～平成30年6月）

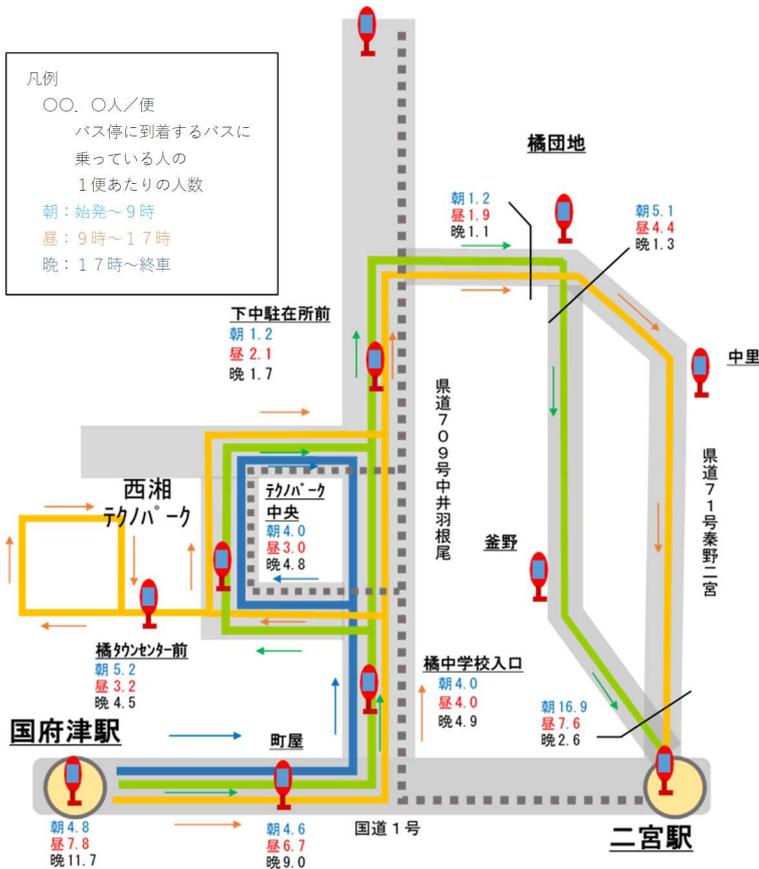
緑色・黄色・茶色・紫色の路線	
1日あたりの利用者数の合計	834人/日
運行バスの台数	4台
1台あたりの輸送人員（1日当り）	208人/台

（再編前の1.14倍）

- ・朝方の通勤時間帯の需要に対応するため、紫の路線を新設
- ・利用者の少ない坂呂橋～比奈窪区間の廃止や、昼間の時間帯の減便、黄色と茶色の路線の統合により、バスの運行台数を1台減らした結果、1割程度の効率化が図られた。

3 現在のバスの利用状況（主要バス停の前後を通過するバスに乗っている利用者の人数（1便当り））
 （平成29年9月再編後～平成30年6月の実績より算出）

往路



- ①国道1号区間は朝、昼、晩ともに一定の利用がある
- ②橋団地バス停から国府津駅方面へ向かう利用者は、二宮方面に向かう利用者に比べ小數
- ③橋団地から下中駐在所前バス停区間の利用者はほぼ同数となっており、当該区間における利用者数は少数

復路



4 テクノパーク周辺の各バス停で乗車する人数の比較

橋タウンセンター前バス停の乗車人数（図：水色）

は平成 28～29 年再編後まで 50～90 人/月（1.7～3.0 人/日）と少ない。

一方、テクノパーク中央バス停の利用者（図：桃色）は増加傾向にある。

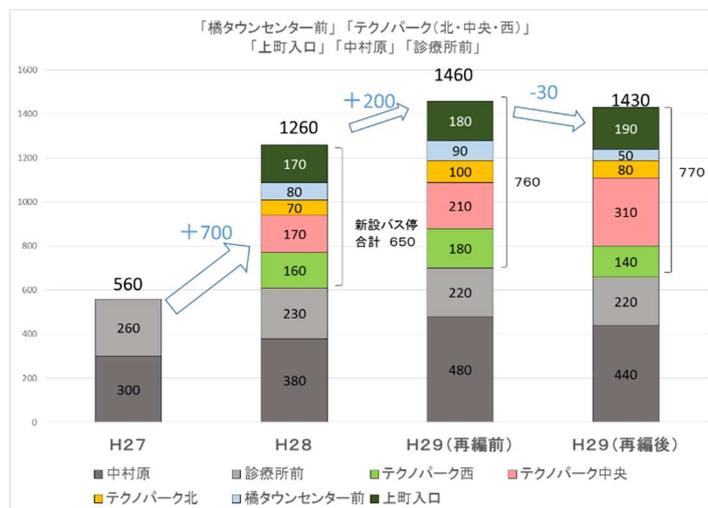
テクノパーク中央バス停の利用者数の推移

H28 170 人/月（5.7 人/日）

H29 再編前 210 人/月（7.0 人/日）

H29 再編後 310 人/月（10.3 人/日）

テクノパーク周辺の各バス停で乗車する人数(1 月当り)



5 平成 30 年 6 月までの実績による検証結果

- ・ 路線再編と利用啓発活動により、1 日の 1 台あたりの輸送人員が着手前の **1～2 割程度増加**
- ・ **国道 1 号沿いの前羽地区では、朝、昼、晩ともに一定の利用需要を確認**
- ・ テクノパーク中央バス停の需要は、**企業への啓発等により、増加傾向**
- ・ 橋タウンセンター前バス停の需要は低い状況
- ・ 橋団地から国府津駅に向かう利用者は二宮駅方向に比べ少数

6 今後の方針

- ・ 今後ともバスの利用状況を注視するとともに、実証運行終了後の橋地域における地域公共交通について関係機関等と検討・調整を行う。

まち・住まい・交通の創蓄省エネルギー化モデル構築支援事業について (第 5 回バス de おでかけプロジェクトの実施について)

1 目的

本プロジェクトは、自家用車からエコな公共交通への転換を推進することにより、増加する本市の CO2 排出量の削減を図るため、商業者、バス事業者及び小田原市の官民連携により実施している。また、道路混雑の緩和と公共交通の利用者の増加及び、市民のおでかけの機会の増加（健康増進・未病）を図ろうとするものである。

2 プロジェクト参加者

商業者：株式会社ダイドーフォワード、イトーヨーカドー小田原店
バス事業者：箱根登山バス株式会社、富士急湘南バス株式会社
行政：小田原市

3 実施期間

- (1) 配布期間 平成 30 年 7 月 14 日(土)から平成 30 年 8 月 13 日(月)まで 31 日間
※配布期間中は、先着 170 枚/日(85 枚×2 箇所)を毎日配布
- (2) 利用期間 平成 30 年 7 月 14 日(土)から平成 30 年 10 月 14 日(日)まで 92 日間

4 プロジェクトの内容

- (1) 購入金額 2,000 円(税込)ごとにバス無料乗車券 1 枚を配布(最大 2 枚まで)
- (2) 利用者は、プロジェクト実施期間内にバス無料乗車券を利用
- (3) バス事業者は、バス無料乗車券の利用実績に基づく運行協力金を商業施設へ請求
- (4) 商業者は、バス事業者から請求された金額を支払い
- (5) プロジェクト終了後、バス事業者は、商業施設の広告をバス車内等に掲示

5 今後の実施方針

本プロジェクトは、過去 4 回(平成 27 年度：第 1 回・第 2 回、平成 28 年度：第 3 回、平成 29 年度：第 4 回)の実施後に効果の検証等を行っており、今回も同様に終了後に三者にて今後の実施方法等について検討を行う。

6 過去の実施結果等(参考)

裏面のとおり

過去の実施結果等

	第1回	第2回	第3回	第4回
配布期間	H27.7.16～7.24 10日間	H27.11.3～12.31 59日間 ※なくなり次第配布終了	H28.7.1～8.31 62日間 ※なくなり次第配布終了	H29.7.1～7.31 31日間
利用期間	H27.7.25～8.9 16日間	H27.11.3～H28.1.31 90日間	H28.7.1～9.30 92日間	H29.7.1～9.30 92日間
配布予定数	3,000枚	6,000枚	→	6,200枚
配布条件	購入金額3,000円以上で1枚	購入金額2,000円ごとに1枚 ※最大4枚まで	→	購入金額2,000円ごとに1枚 ※最大2枚まで
利用条件	「ダイナシティ」又は「小田原東郵便局前」バス停で下車した場合に有効	「ダイナシティ」又は「小田原東郵便局前」バス停で乗車又は下車した場合に有効	→	→
予算	商業施設54万円 ※9万円/月×2か月×3社	商業施設81万円 ※9万円/月×3か月×3社	→	→
バス精算単価	箱根登山バス 195円 富士急湘南バス 265円	→	→	→
広報	○ポスター ○チラシ ○店舗広告 ○ホームページ ○市広報 ○地域情報誌 ○新聞記事	第1回の周知方法に加え次の周知を実施 ○のぼり旗の設置 ○顧客向けギフトカタログ発送時にチラシ同封 ○バス車内でのチラシ・ポスター掲示、案内放送 ○おだわらスマートシティフェア(11/3)に出展	第2回の周知方法を実施 ※おだわらスマートシティフェアは、開催月が重ならないため、未出展	第3回の周知方法に加え次の周知を実施 ○ケーブルテレビ
実施結果	配布 263枚(総数比 8.8%) 利用 102枚(配布比 38.8%)	配布 6,000枚(全て配布) 利用 3,917枚(配布比 65.3%)	配布 6,000枚(全て配布) 利用 4,082枚(配布比 68.0%) (前回比 4.2%増)	配布 6,200枚(全て配布) 利用 4,362枚(配布比 70.4%) (前回比 6.9%増)
実施費用	20,240円(予算比 3.74%) 箱根登山バス 18,915円(97枚) 富士急湘南バス 1,325円(5枚)	785,375円(予算比 96.9%) 箱根登山バス 703,755円(3,609枚) 富士急湘南バス 81,620円(308枚)	822,590円(予算比 101.5%) 箱根登山バス 721,890円(3,702枚) 富士急湘南バス 100,700円(380枚)	886,290円(予算比 109.4%) 箱根登山バス 751,140円(3,852枚) 富士急湘南バス 135,150円(510枚)
実施効果	車→バス移行台数 18台 CO2削減量 113kg	車→バス移行台数 951台 CO2削減量 5,992kg	車→バス移行台数 881台 CO2削減量 5,551kg	車→バス移行台数 1,352台 CO2削減量 8,519kg
アンケート	回答 22枚(利用比 21.5%) 【ダイナシティへの普段の交通手段】 バス : 19枚(35.2%) 自家用車 : 10枚(18.5%)	回答 1,220枚(利用比 31.1%) 【ダイナシティへの普段の交通手段】 バス・電車: 976枚(49.5%) 自家用車 : 479枚(24.3%)	回答 1,144枚(利用比 28.0%) 【ダイナシティへの普段の交通手段】 バス・電車: 997枚(47.6%) 自家用車 : 452枚(21.6%)	回答 1,090枚(利用比 24.9%) 【ダイナシティへの普段の交通手段】 バス・電車: 719枚(44.3%) 自家用車 : 503枚(31.0%)